

巨大太陽光発電所計画

三重・鳥羽

たけだ、島津氏らが現地調査、懇談

三重県鳥羽市で大規模な太陽光発電所が計画され、森林伐採による災害や環境破壊への懸念などで地元住民の反対運動が起こっています。たけだ良介参院議員、島津幸広前衆院議員らは3日、建設予定地を調査し、中村欣一郎市長、住民らと懇談しました。調査には、たけだ議員秘書や中川民英参院選挙区候補、岡野恵美県議、堀江泰夫東海ブロック所長や戸上健鳥羽市議らも同行しました。

つづき取り組んでいきます」と語りました。

市議会が全会一致で請願採択、反対決議も

計画地に隣接する二つの町内会は、6月市議会に反対決議を求める請願を提出し、市議会では全会一致で採択され、反対決議も可決しました。

請願では①大規模な土木工事で周辺に甚大な土砂災害や水害を起こす恐れ②下流域が過去に幾度も氾濫し、建設予定地は土石流危険渓流に指定されている③計画地は伊勢志摩国立公園内で、風致地区に指定され、自然的景観や都市環境の保全の維持が困難などの反対理由をあげています。

「鳥羽市は食と景観が売り」「地盤ゆるく災害が不安」「貴重な渡り鳥のルートになっている」

計画されているのは、船津町樋ノ山地区の急しゅんな山林で、計画面積は約20ヘクタール(ナゴヤドーム4個分強)、発電規模は17メガワットの太陽光発電所です。

一行は、地元住民の案内で、計画予定地を調査し、市役所で中村市長と懇談。さらに関係する住民らと懇談しました。

中村市長は「再生可能エネルギーの普及はすすめるべきだが、食と並んで景観が売りの鳥羽市としては、そこまですすめるのかという思い」と語りました。

住民との懇談では、笠井信徳五丁目町内会長が、「ここは地盤がゆるい地域で、伐採によって保水力がなくなり災害につながる恐れがある」と述べました。

下辻富士雄ハイツ赤崎町内会長



太陽光発電所建設予定地(写真上)、現地を調査するたけだ氏(写真下、右から2人目)ら



鳥羽市役所で市長らと懇談するたけだ氏ら

住民合意を大切にする計画に

島津前議員は、各地の太陽光発電の反対運動を紹介し、「住民の団結が重要。住民を広く巻き込んで、看板を立てるなどPRしていくことも必要」と答えました。

たけだ議員は「再生エネルギーの普及と、それによる乱開発や災害の懸念が全国に広がっています。住民合意のない事業計画は立ち止まるべきです。再生エネルギーの普及とともに、アセス法の見直しによって住民同意をより大切にするなど、ひき

自然エネルギー建設計画を考える学習交流会開く―党三重県委

三重県委員会は6日、自然エネルギーの建設計画を抱える自治体の議員が集まり、学習交流会を開きました。参加を予定していた武田参院議員、島津前議員は、本会議や大雨の影響で参加できませんでしたが、県内各地から30人が参加し、活発な討論と交流が行われました。